

PREFACE

THIS volume is the fourth in the series of “ Background ” books issued by the United Council for Missionary Education, and is an attempt to describe in a few short chapters the life and ways of the people of Japan, following as far as possible the method which was used in writing of the peoples of China, Africa, and India. It is only an outline, and the information in it has of necessity been compressed into very few pages, but it may serve as a background for teachers in day and Sunday schools who wish to bring home to their pupils that the people of Japan are real ; that they have their joys and sorrows, their history and traditions, and that these are worthy of serious study.

In writing a short account of a nation with a civilization in some ways more highly developed than our own, every point of view and every modifying circumstance cannot be presented, but it is hoped that where it has been found necessary to speak of what is weak or bad there has been no lack of charity, no exaggeration or unfairness. The writer is proud to count herself a friend of the Japanese people, and wishes to place on record the kindness which she has received from them during a period extending over many years. If this little book induces some people to read and inquire more about the age-long customs, the new aspirations and achievements, and the needs of this wonderful island empire, it will not have been written in vain.

In order to arrive at a real understanding of Japan it

まえがき

この書物は、宣教師教育連合審議会発行『世界諸国背景知識シリーズ』の第4巻をなすものですが、これまでシナ〔当時の中国の呼称〕・アフリカ・インドに関して採用されてきた手法を出来る限り踏襲することによって、限られた紙数の中で日本人の生活様式あるいはその思考方式を紹介しようと試みるものがあります。ただ、紙数が限られているために、この書物ではその概観をお伝えすることが出来たに過ぎません。この書物に盛られた情報と知識は、やむなく圧縮されざるを得ませんでした。しかし、日本人の真実の姿、すなわち日本人には日々の喜びも悲しみもあり日本人が歴史も伝統も持った民族であるということ、そしてこれらの研究が真剣な研究の対象として取り組むに値するものであるということを本国に伝えたいと思う一般校ならびに日曜学校などの先生方に、その背景的知識を提供したいと願うものであります。

ある面から見れば私たち以上に高い文明を持っている日本という国についての記述に際して、すべての問題についての紹介は不可能と言うべきでありましょう。しかし、私は、この国の劣っているところや欠点に関する記述において、十分に寛容の気持ちを持っていたかということ、誇張とか過剰な潤色がなかったということを唯々願うものであります。筆者は、自分自身が日本人の真の意味の友人の一人であると公言できるということに誇りと喜びを有する者であり、その長期間の日本滞在中に多くの日本の方々から寄せられた数々の好意に感謝し、これを記録に残したいと願う者であります。もしこの小著を読まれた方が、この長い伝統を誇る日本という国について更なる興味をおぼえられ、今日の日本人の願望とか貢献について更なる関心をお持ち下さり、そしてこの小さいながらも素晴らしい海洋帝国日本の求めるところを付度して下さることになれば、この小著の刊行は決して無駄ではなかったということになりましょう。

日本を真の意味において理解するためには、日常目にするただの絵画であるとか、ごくありふれた平凡な陶磁器とか塗物であるとか、日本人が平常身に着

is important to learn something of the art of the country as contained in pictures, china, lacquer, and the national dress. Books written in the Japanese language are beyond most of us, but Japan is rich in beautiful things, and these speak a language which may be learnt by all. The art of the country has not been touched upon in the following pages, but many treasures may be found amongst us, and will repay careful study and examination by discriminating eyes which can distinguish between that which is “exported for business” and that which is the fruit of many years of patient labour.

The author wishes to give grateful thanks to all those who, by criticism and encouragement, or by supplying additional information, have made possible the writing of this short outline.

E. M. H.

June 1928

ける伝統的な着物などにさりげなく表現されている日本人の美意識を理解していただくなくてはなりません。ただ、日本語で書かれた書物を読みこなすことは、とても現在の私たちの殆どの者の能力の及ぶところではありません。しかし、日本には至るところに美しいものが溢れるばかりに存在していて、それらのものは私たちのすべての者が理解できる世界共通の言葉、すなわち美そのものによって私たちに語りかけていると言えるのではないのでしょうか？ ただ残念ながら、私は以下の諸章において、日本の美術についてその神髄に迫ることは出来ませんでした。私たちの身近なところで、多くの宝物ともいうべきものが発見され、それこそ長年の研鑽の結果その真贋を見分ける鑑識眼を持つに至った方々の手によって本物の良さが発見され、「商業用の輸出品」と長年月の伝統に支えられた高度の芸術品との違いを識別することが可能となるのではないのでしょうか。

この小著出版に際して、批評によるにせよ激励によるにせよ、あるいは筆者に欠けている情報知識を提供して下さることによって、この小著の執筆を可能にして下さった皆様に対して、心からの感謝の念を捧げる次第であります。

エセル=M=ヒューズ

1928年6月